

## 地元主体の体制づくりによるサルの被害防止対策 2

### 1 要旨

サルの出没、農作物の被害に悩まされている下関市豊北町大字阿川の河内地区において、地域ぐるみによる大型囲いわなの設置を行った結果、サルの捕獲頭数が増え、農作物の被害が減少した。

地元集落に対し、設置前のルール作りや役割分担を明確化することにより、行政主導から地元主導の自主的な活動に移行し、継続した被害対策に取り組んでいる。

### 2 地区の概要

地区名	下関市豊北町大字阿川 河内地区
戸数	40戸（うち、農家35戸）
耕作面積	19.4ha
主な作物	水稻など
加害獣種	サル
対策実施年度	平成29年度

下関市豊北町  
大字阿川 河内地区



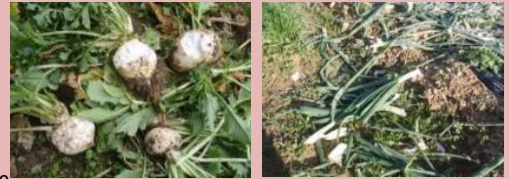
### 3 被害の状況と課題

○近年は野菜、果樹を中心にサルによる農作物被害が出ており、生産者の生産意欲が低下している。

○モンキーDOG、爆竹などで追い払いを行っているが、効果は一時的で根本的な被害防止になっていない。

○住居敷地内の果樹などは未対策で、放任果樹もあるため、加害サルを誘引しているという懸念がある。

○鳥獣被害対策に詳しい住民が少なく、地区で鳥獣被害対策を牽引するリーダーがいない。



サルによる農作物の被害

### 4 取組内容

#### (1) 推進体制づくり

○被害防止活動を実行する体制づくりに向けて役割分担を明確化した。

- ・下関市（協議会の運営・地域アドバイザー）
- ・下関市鳥獣被害防止対策協議会（大型囲いわなの設置導入）
- ・下関農林事務所（鳥獣被害防止と駆除に関する助言・指導）
- ・豊北地区猟友会（捕獲体制の協力・銃器による駆除、わなによる駆除）
- ・阿川河内集落（情報提供と被害対策への協力、遊休農地発生防止のための管理）
- ・阿川河内自治会（情報提供と被害対策への協力）

※下関市鳥獣被害防止対策協議会

（市、猟友会、自治会、農協、農業共済、森林組合、県出先機関にて組織）

○平成29年度にモンキーDOG養成訓練を実施し、1頭を認定。捕獲だけではなく追い払いも強化した。



モンキードッグ養成講座を実施



集落環境調査を実施

## (2) 活動方針づくり

市職員と住民で、被害を受けている田畑や獣道、耕作放棄地など「集落環境調査」を実施して3年間の活動方針を作成した。

## (3) サルの生息状況の把握と大型囲いわなの設置

○県のサル生息数調査による分布図に基づき、豊北町内のサルの生息状況を把握し、加害レベルの高い群れに対して、適切な位置に大型囲いわなを設置した。

○地元集落に対し、大型囲いわな設置に対する理解と協力を求め、ルール化した。

(土地の無償提供、設置期間、役割分担など)

○大型囲いわなの管理は猟友会が行い、周囲の草刈りや餌の確保は地元が行う。



大型囲いわな



地元住民による囲いわな周辺の草刈り

## 5 取組の成果

○サルの捕獲頭数は3年間で76頭に達し、被害額も減少傾向となった。

【被害額】

(千円)

区分	事業実施前	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		実績	増減	実績	増減	実績	増減
サル	450	395	▲55	315	▲135	270	▲180

## 6 関係者のコメント

事業開始当初は関心が低かった住民も、設置した囲いわなによりサルが捕獲されている場面を実際に見ることで関心が高まっていると感じる。

引き続き、住民の最大の関心事項であるサルの個体数を減らすことで、集落の隅々まで一丸となって被害軽減に取り組むことの重要性を周知したい。

## 7 今後の取組

下関市豊北町内の田耕、栗野の2地区も同様の取組を行っており、引き続き地域の中で連携しながら鳥獣被害対策を進めていく。